

こ こ

今、福島大学でしか得られないものがある

東日本大震災後、福島大学は被災地の大学として、何ができるのか、何をすべきかを考え、地域に出て取り組んできました。災害から学ぶ、復興を支援する、地域の活力を支える、確かな力を持った人材を育成する、今、ここでしか学べないことを福島大学は提供していきます。

1. 災害復興学の構築に向けて

福島大学・宮城教育大学・山形大学の3国立大学は、東北の復旧・復興を支援し、新しい東北を創り上げていくために連携して取り組んでいます。その一つとして、長期にわたる復興事業の一翼を担うべく「災害復興学」の構築について教育面で協力・推進しています。

また、福島大学では、平成24年度の総合科目で、前期「水・土地の汚染と私たちの健康・生活」、後期「原子力災害と地域」「現代社会と環境」「災害復興支援学」を開講します。中でも「災害復興支援学」は、「うつくしまふくしま未来支援センター」の研究者が中心となって、様々な復興支援の姿を伝えたいと考えています。

2. 学生ボランティアの単位化

震災発生直後から、避難所対応、がれき撤去、泥出し、災害住宅の片付け、街頭募金など多くの学生が自主的にボランティア活動に取り組んできていました。このことを受け、ボランティア活動を従来の授業科目である「自己学習プログラム」の特例として単位認定することとしました。(平成23年度からボランティア活動の合計時間が45時間程度で1単位、90時間程度で2単位)学生のボランティア参加を後押しすることで、被災地支援に繋がるとともに、本来の自己学習プログラムの目的である学生の自主性・主体性・社会性の育成を期待しています。

3. 学生の活動について

地震・津波・原発事故・風評という複合災害に置かれた福島県にあって、学生は様々な支援・復興活動に取り組んでいます。

～学生団体「福島大学災害ボランティアセンター」～

大学の避難所でボランティアとして避難所運営を支えてくれた学生が中心となり、「災害ボランティアセンター」を立ち上げ、津波被害の建物の泥出しや避難所への物資搬入から始まり、仮設住宅への訪問ボランティア、「餅つき・望年会」などのイベントを通じたコミュニティづくりや自治会の手助け、「足湯活動」などの傾聴ボランティアへと活動を続けています。



仮設住宅での足湯ボランティア

～子ども支援による学び・遊び支援～

学生が主体となって行った「子ども支援ボランティア」では、仮設住宅(当初は避難所)に避難中の小中学生を訪ね、学習支援や遊び支援のボランティアを続けてきました。この活動と並行しながら、次のステップとして、大学キャンパスに子どもたちを招いて「クリスマスパーティー」を催したり、大学の施設や広々としたスペースを活かして「土曜子どもキャンパス」を開催し、のびのびとした学習・遊びの機会を作っています。



子どもたちへの学習支援

～復興マルシェの開催～

学生が生産者と協働し「街なかマルシェ」(青空市)というイベントを通して、地産地消や付加価値生産、地域間交流を通じて地域づくりの推進を目指してきました。平成23・24年度は「復興マルシェ」として、放射性物質検査のデモンストレーション、生産者と直接語り合えるファーマーズカフェなどを企画し、震災後の福島に沿った農産物の提供を試みています。学生が実践的に学びながら、生産者と消費者との交流の場を作り、県産品の風評被害の払拭、福島復興へ繋げていきたいと思っています。



平成24年復興七タマルシェ

4. 国際化に向けて

「ルーマニア・日本・ユースプロジェクト」へ参加

平成23年9月に、ルーマニア政府主催の「ルーマニア・日本・ユースプロジェクト」へ招待を受け15名の学生が研修旅行に参加し、ルーマニア各地でN G O団体や同国学生と交流しながら、ルーマニアの歴史とルーマニアから見た日本について学んできました。

その縁もあり、平成24年6月には、ルーマニア大使が福島大学を訪れ、研修に参加した学生と今後の留学や同国との友好的な交流について積極的に意見を交わしていました。



ルーマニア訪問の様子

「Fukushima Ambassadors Program(福島親善大使プログラム)」スタート

平成24年度は、協定校など海外大学の学生を招いて、被災地でのボランティアやホームステイなどの体験、学生ボランティアとの交流を通して福島を知ってもらう「福島親善大使プログラム」を企画し、第一弾としてミドルテネシー州立大学(アメリカ)から10名の学生を受け入れました。

7月にはアメリカ大使が福島大学を訪れ、学生ボランティアとして受け入れ学生のサポートにあたったメンバーとの懇談会を行い、日米交流や福島の復興について意見を交わしました。



仮設住宅を訪れて

5. 放射線への取り組みについて

環境放射能の研究

原発事故の直後に教員有志で立ち上げた「放射線計測チーム」では、放射線計測による空間放射線量率マップを作成し、国や県、関係自治体への情報提供を行いました。大学が行う研究を地域の環境改善に活かしながら、現在は環境放射能の動態と影響を解明する先端研究拠点の整備に向けて取り組んでいます。

除染の実施

学生がより安心・安全に生活できる環境の確保に努めるべく、キャンパス内の除染を進めているだけでなく、一般の除染活動に活かせるよう実証試験としての除染実験を行っています。

- 平成23年7月～8月
キャンパス内のU字側溝および高線量地点(ホットスポット)に溜まった落ち葉や土砂等の除去と洗浄作業実施。
- 平成23年11月～平成24年3月
サッカー・ラグビー場、ハンドボールコート、野球場、弓道場、馬場について、除染工事実施。
- 平成24年1月～4月
陸上競技場(芝生部)、テニスコート、中央広場(インターロッキング、芝生部)について、除染工事実施。
- 平成24年8月～9月予定
野外ステージ・サークル棟周辺について、除染工事実施予定。

また、放射線の影響に関する学生の疑問や悩みごとに対応する相談窓口の設置や積算線量計・ポケットサーベイメータの貸し出しを行っているほか、学生が活動する主な場所について放射線量測定を行いホームページで公表しています。

★計測データの公表

<<http://www.fukushima-u.ac.jp/guidance/top/fukudai-housyasen.html>>

【参考値】

空間放射線量率(μSv/h)

	理工工 置場横	西門 警務員室前	調整池前 道路	野球場 マウンド	サッカー・ ラグビー場 中央	学舎中央 前道路	第2体育館 中央	プール建物 前道路	S棟前 広場	本部 管理棟前	L4教室内 中央	人間・理工 ロータリー前
2012/07/19	0.28	0.33	0.52	0.17	0.14	0.39	0.11	0.82	0.28	0.43	0.10	0.50



実証試験を兼ねた中央広場(インターロッキング)除染

福島大学の情報はホームページでチェック!

入試情報もホームページでチェック!

福島大学

で 検索

福島大学 入試

で 検索